

日本銅学会 第54回講演大会

会長挨拶

日本伸銅協会並びに日本銅学会会長の吉田でございます。

日本銅学会第54回講演大会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本年も大変ご多忙の中、休日にもかかわらずお越しいただきました経済産業省非鉄金属課の井上課長様はじめ多数のご参加を賜り、例年通り講演大会を開催できますことを主催者として、深く感謝申し上げます。

それでは、最近の銅を取り巻く状況について簡単にご報告させていただきます。

ご存じの通り、日本経済は4月の消費税引き上げに伴う影響を受け、引き上げの前には住宅や自動車、白物家電などの耐久消費財を中心に大きな駆け込み需要が見られました。引き上げ後は、こうした分野の需要は縮小し、現在も回復には手間取っているようでございます。

こうした中、伸銅品需要は、自動車や半導体などの海外需要の後

押しもあり、品種間に多少のばらつきは見られるものの比較的順調に推移してまいりました。そうした結果、今年度の伸銅品生産は、平成23年度以来3年ぶりの80万トン超えとなる81万トンの回復を見込んでおります。

然しながら、80万トン台と申しましても、100万トン台を維持していたリーマンショック以前と比べますと、20%近くも数量が減少していることとなります。このように伸銅品需要が長期に低迷している要因としては、国内のユーザー産業の海外シフトが進み、昨年からの円安回帰にも拘らず輸出が伸び悩んでいることが挙げられます。

また、ユーザーである先端産業の高機能化による軽薄短小の動きも、影響しています。

このように数量面で伸び悩んでいる伸銅品の現状を切り開くため、伸銅協会のアクションプランのフェーズIIの一環として、「日本伸銅業のロードマップ」を策定する活動を開始致しました。年産100万トンへの将来的な回復を目指し、中長期的な観点から伸銅品の需要見通しと技術開発の目標を明確にしていきたいと考えています。

ロードマップの策定は、板条・銅管・黄銅棒のメーカーの関係者はもとより、当然のことながら大学などの研究機関の知見を頂きながら進めていきたいと望んでいます。本日までご参集の皆様方の幅広いご参加を頂きますよう改めてお願い申し上げます。

国際競争力の視点と技術進歩の速さを考慮しますと、幅広い知見をお持ちの学の皆様と銅産業とが一層連携し、更には官のご支援を得て、目に見える形で成果を顕在化し、世界に存在感を示していくことが必要不可欠であります。

日本伸銅協会と致しましても、日本銅学会の発展のために、各種の研究助成の拡充と産学共同研究の推進を重要課題と強く認識致しております。

ところで、最近の話題として、日本人研究者3名が同時にノーベル物理学賞の受賞者に選ばれました。ノーベル賞は過去の研究等の実績が評価されるものではありませんが、現在の日本の科学水準を測る側面も持ち合わせていると思われれます。

最後になりましたが、本日、栄えある論文賞を受賞されます6件の関係者と名誉会員に推戴されました3名の皆様にお祝いを申し上げます。

また、ご列席を頂きました経済産業省非鉄金属課井上課長様には、

日頃のご支援に対しまして御礼を申し上げますと共に、引き続きましてのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

ご多用の中、特別講演をお引受け下さいました3名の講師の先生方、並びに研究発表を頂く各界の研究者の皆様方に対しまして、心よりの御礼を申し上げます。

更に、今回の開催に当たり会場をご提供頂きました横浜国立大学と、大会の準備・運営にご尽力頂きました福富先生を初め実行委員会の皆様方に感謝申し上げます。

今後とも、日本銅学会が大いに発展致しますことを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。